

## 【瀬谷区】令和 8 年第 1 回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和 8 年 2 月 6 日（金） 10 時 00 分 ～ 11 時 45 分
場 所	瀬谷区役所 5 階 健康相談室
出席者	<p>【座 長】川口広議員</p> <p>【議 員： 2 名】花上喜代志議員、久保和弘議員</p> <p>【瀬谷区： 3 4 名】山岸秀之区長、富永裕之副区長、 木村洋福祉保健センター長、 長井真福祉保健センター担当部長、 坂口堅章土木事務所長、 細川直樹災害対策担当部長（瀬谷消防署長） ほか関係職員</p>
議 題	令和 8 年度 瀬谷区編成予算案（個性ある区づくり推進費）
発言の 要 旨	<p>&lt;令和 8 年度 瀬谷区編成予算案&gt;</p> <p>【花上議員】区役所の役割を考えると、特に GREEN×EXPO が来年に迫り、上瀬谷のまちづくりがどんどん具体的なものが表に出てきて、最近では「瀬谷区」という名前がかなり認知されてきたと思う。そういう状況を踏まえて、区長としてこの 1 年どういう考え方で進めていこうとするのか、区の責任者としての考えを聞かせてほしい。</p> <p>【山岸区長】「瀬谷区」を郊外部の中心にしていくと市長も言っているなかで、これからますます注目を浴びていきますし、非常に重要な区であると思っています。まずは 8 年度、来年の 3 月に迫った GREEN×EXPO 2027 の開催地元区として、別紙でも付けさせていただきましたが、GREEN×EXPO の機運醸成に向けて力を入れてやっていくという予算編成にしています。同時に、区民が安心安全に生活できるというのがベースになっているので、防災や子育て、高齢・障害、そして、ちょうどこの 4 月から、第 5 期の地域福祉保健計画も新しいものになりますので、そういったものもしっかりとやっていく予算編成にしました。GREEN×EXPO の開催、機運醸成に向けて、そして市民、区民生活の安心安全に向けた取組を両立させていく。こ</p>

ういった思いで編成した予算案となっています。

【花上議員】是非そういう心構えで、この1年、瀬谷区政に取り組んでいただきたいと思う。自助・公助・共助、これが防災についてよく言われることだが、この自助・共助・公助というのは防災だけじゃないと思う。行政としてこれを踏まえて、市民生活に対応していくということが大事ではないかと思う。区役所は法律に基づいて行政を行う、そういう公的な機関ではあるが、今は行政と民間が力を合わせて共に区政を推進していく、市政を推進していく、そういう時代に入ってきたと思う。GREEN×EXPO について言えば、行政だけでできることではないので、官民挙げて成功に向けた取組というのが必要だと思う。国、県、市一体となった行政としての取組と、民間の企業あるいは市民と協働して、成功に向けて三位一体となって取り組んでいく必要がある。特に今年は、自覚を持って幅広く成功に向けた機運を醸成して、機運だけではなくて具体的な取組を行っていくということが大事だと思うがどう考えるか。

【山岸区長】行政や地域だけが力を入れて取り組むということではないと思っています。行政、それから各団体、企業が一体となって盛り上げていかなければならないですし、局とか協会が中心になってやらなければいけないことがあるかもしれません。昨年の11月、ロータリークラブとライオンズクラブが初めて一緒になって瀬谷駅でGREEN×EXPOを盛り上げるイベントをやっていただきました。そういったいい事例もある中で、4月以降、団体や企業にお邪魔をして、機運醸成やPRに向けてお願いをしていきたいなと考えています。そういった形で、企業、団体、地域、行政、先生方と一体になって盛り上げていくということを更に8年度は力を入れてやっていく必要があると思っていますところです。

【花上議員】今、例に出たが、ロータリークラブとライオンズクラブが合同で行ったGREEN×EXPOを盛り上げるための機運醸成の取組、あんなことはいまだかつてなかった。それがGREEN×EXPOを期に、そういった機運が生まれて、具体的なイベントが行われた。このことは非常に大きな意味を持つと思っている。今後は更に、それを踏まえて幅広く多くの方々にGREEN×EXPO、その後の上瀬谷のまちづくりなどについても一体的に行っていくような仕掛けが必要ではないかと思っている。区役所だけではなく、市民などからもアイデアをもらう、そういった取組というのは大事ではないかと思うのだが、この点についてはどう考えるか。

【山岸区長】3人の先生方にも入っていただいている、園芸博覧会の瀬谷区推進協議会ですが、これはありとあらゆる団体や企業が入った協議会なので、より強く連携していきたいと考えています。推進協議会に入っている企業の皆様に、どういったことでご協力いただけるかということはアンケートを取ったりもしていますし、会議の前の幹事会でも、メンバーの方に意見を聞いたりもしています。多くの企業・団体が集まっていますので、そういった場を活用して、スピード感を持ちながら一緒に具体的に盛り上げていくということをやっていかなければいけないと考えています。

【花上議員】今のやり取りを踏まえて、これからの1年間、具体的に瀬谷区政をどのように進めていくか、今、懸念していることとして、自治会・町内会の加入率が年々低下するなど、世の中全体がコロナ以来、地域力が弱ってきているというような実態も見えていて、これからGREEN×EXPOに向けて、大いに盛り上げていかなければならない時期なので、それをカバーするような知恵と工夫が必要ではないかと思う。前市長が就任したとき、前年踏襲みたいな気持ちで仕事をするのではなくて、区切り区切りでチェックをして、新たな発想を取り入れながら、変化に対応して行政を進めていく。そういう考え方を取り入れたいと言っていた。瀬谷区においても、これからは特に、そういった考え方が必要ではないかと思う。地域力が弱っているという実態はあるが、瀬谷区はそれを乗り越える色々な工夫を行って、活力ある瀬谷区役所にしてもらいたいと思っているが、その辺りはどう考えているか。

【山岸区長】自治会の加入率は、瀬谷区でも70%を切っている状況です。しかし、着任以降色々な地域を回りましたが、中には若い方も入って一緒に工夫しているところもあります。また、今、11の連合ありますが、各地区に課長、係長が付いて、地域の方のご意見を聞いています。そういった意見も聞きながら、色々な事業をやっていくにあたって、前例踏襲みたいなものはよくないなと思っているので、予算編成をする前に、全課を回って「前例踏襲じゃなくて、何のためにこの事業をやるのか。目的を考えて事業をやっていこう」という話もしました。地域の皆様の声もよく聞きながら地域を活性化していくといったことを考えていかなければいけないと思っています。幸いにして、地域の方も温かい方が多いので、良好なコミュニケーションが取れていると思います。そういったご意見も聞きながら、地域力を高めるためにしっかり取り組んでいかなければいけないなど

思っています。

【花上議員】前年踏襲の考え方も必要だけれども、やはり「臨機応変」に新たな状況に対応していくように。是非心構えとして、皆さんに持っていていただければと思っている。

区役所は区民に直接対応しているので、その方々の色々な生活実態とか意見などを聞きながら、対応をしていただきたいが、防災だけではなく、福祉や医療、教育など、様々な業務を皆さんが行っている中で、市民の皆さんから相談が寄せられたり、あるいは、意見が寄せられたことに対しては真摯に対応すること、これは職員として必要ではないかと思うが、こういった点についてはどう考えているか。

【山岸区長】私は、区民から信頼される区役所づくりを一番にやっていきたいと思っていて、それは職員にも常に伝えています。区民の皆様から意見を丁寧に聞いてそれを返していく、そのように仕事をすることによって、区民の皆様から信頼される区役所になっていくと思っています。ここにいる責任職だけではなくて、朝礼訪問などの際にも、このことを常々言っています。区民の皆様から信頼される区役所になるために、きちんと法律に基づいてやらなければいけないこと、そしてお困り事をしっかり丁寧に聞いて、寄り添ってやっていきたいなと思っています。

【花上議員】GREEN×EXPO の関係で、瀬谷駅と三ツ境駅のトイレが心配だということで、私も GREEN×EXPO の担当者と話をしているが、瀬谷駅は新たにトイレを改修するとのことだが、1,000 万人以上が6か月間に来るといような想定に対して、駅前にトイレがないというのはどうなのか。瀬谷駅で待っている人たち、それから歩いて会場に行く人に対しては、歩道に東屋をつくるというような、そういう構想が出てきていると聞いたが、東屋だけじゃなくて、仮設トイレというのも考えていかなければいけないと思うので、瀬谷駅については、是非具体化してほしいと思っている。併せて、三ツ境駅の駅前にバスターミナルがあるが、三ツ境駅を利用する方々が、GREEN×EXPO の会場に行こうと思ってバスを待っている間、トイレがないということでは困るので、相鉄と話をして、1年後までに三ツ境駅にはトイレを作ってもらえるように、交渉してもらわなければいけないと思っているが、この辺りについては何らかの取組はしているのか。

【富永副区長】トイレ問題もそうですし、喫煙問題もそうですが地域の方々からご懸念のお声をいただくことが多くあります。区だけの力ではな

かなか難しい部分もありますので、区を通じて局、それから協会に対して様々な機会をとらえて、意見として伝えていきます。それに対して民間企業の協力や、既存トイレの活用みたいなのところも含めて、取り組んでいくという話は聞いています。

【花上議員】 GREEN×EXPO が1年後。その後、テーマパークができれば、1年間に1,500万人のお客様が瀬谷を訪れることになるので、更にトイレの問題なども、考えていかなければならないと思っている。相模鉄道さんが、最寄り駅、拠点駅なので、相模鉄道に会社として取組をしていただくということが大事ではないかと思うので、これから色々な課題について話し合っていていただくことが大事だと思う。以前から、「瀬谷駅と三ツ境駅に特急を止めてほしい」というふうに言ってきたが、本社の中で色々検討してくれているという話は聞いているが、それを実現するために、今言ったような課題について、しっかりと取組をしていただければということをお願いしておく。

それから、今、衆議院選挙の期日前投票をやっていると思うが、今の直近の数字が分かれば教えてほしい。

【松田総務課長】 今、区役所とあじさいプラザで期日前投票をやっていますが、前回衆議院選挙に比べて大体1.3倍ぐらいの方がお越しになられている状況です。少しお時間をいただければ、具体的な数字は調べてお答えさせていただきますことができます。少し時間をいただければというふうに思っています。

【花上議員】 後で資料をいただきたい。

【久保議員】 いよいよ GREEN×EXPO の開催まで、実質もう1年となってくるが、区長の思いや意気込み、そういったものを改めて伺いたい。

【山岸区長】 あと1年ということで、非常に大事な年になってきます。7年度もかなり色々な取組をやってまいりましたが、8年度は更に力を入れていきたいと思って予算編成をしています。

別紙で付けた資料もご覧いただけると分かりますが、4つのカテゴリーに分けて様々な取組をしています。認知度を高めることも重要であり、区民意識調査の結果や、瀬谷区での推進協議会でのご意見からは、「広報、プロモーションが非常に大切だ」というような調査結果やご意見となっています。残り1年というところがございますので、より多くの方にきちんと認知をしてもらって、中身を知ってもらって、そして実際に足を運んでい

ただくと。そのために様々な取組、特に広報、プロモーションに力を入れてやっていく。そういった予算編成にしていますし、それをしっかりとやっていきたいと思っています。

【久保議員】地元の開催ということもあるので、大事な1年にさせていただきたい。

私も付けていますが、トウクトウクのピンバッジを付けていると、区民の方の目に止まるようで、「これは何ですか。」「これはどこに売ってるんですか。」という話になる。既に課題として認識しているかもしれないが、市役所の2階で売っていると説明しているが、それに対して「行政で配ってないのか」という話になり、「これは有料なんですよ」というやり取りをしている。地元開催区というのもあるので、「これを区役所で販売してくれないのか」という声もけっこう聞いている。権利の問題とか、様々あると思うが、例えばガチャガチャで販売することはできないか。機運醸成を色々な方々にしていくためにも、有効なツールのひとつではないかと思うので、ぜひ販売手法を検討してほしいが、区役所としてどう考えているのか。

【正田区政推進課長】区役所にも非常に多くの方々から「区役所の売店に置けないか」とか「駅周辺の事業所に置けないか」という意見をいただいて調整はしてきましたが、まだ実現してないという状況です。引き続き調整を進めていきたいと思っています。局にも要望は伝えていまして、自動販売機やガチャガチャといった何かしらの形でできないかという提案はしています。局からは、区役所でグッズを販売することができないか、協会のほうとも調整していると聞いていますので、それらを踏まえて、区としても是非置けるように検討したいと思っています。

【久保議員】そういうご要望が届いているということなので、ぜひ検討していただきたい。これはお願いできればと思う。

資料4ページ、1番の「地域防災関連事業」の(1)のイに「瀬谷防災救急フェア」があるが、私も昨年参加させていただいた。当日、子育て世代の方や、その保護者の方が非常に多くいらっしゃって、楽しく声を上げながらお子さんも楽しんでた。これは、子育て世代など高齢者から幅広くやっていると思うが、これを実施した効果はどうだったのか。今年度これを事業化していくということだと思うので、この事業にどのような狙いがあるのかを確認させてほしい。

【松田総務課長】昨年9月に、せや防災救急フェアということで実施をさせていただきます。実施した経緯としては、令和5年度の区民意識調査の結果から、「子育て世代の防災意識が相対的に低い」と。例えば、家に備蓄をしているような世代が、高齢者よりも若い世代のほうが少ないというような傾向が見られましたので、今年度は、消防署や地域で活動する災害ボランティアの皆様のご協力をいただきながら、親子で参加しやすい体験型ということで企画をしました。例えば、子どもが大好きな消防車両の展示であったり、お子さん方が楽しみながら体験し学べるプログラムであったり、その保護者の方向け、子育て世代向けの防災の展示というようなことを実施して、親子で一緒に参加できるブース構成にしました。非常に多く、約1,000名の参加者がいらっしゃいましたので、非常に手ごたえを感じているところです。狙いどおり子育て世代へのアプローチを図れたと感じています。

【久保議員】約1,000名ということで、非常に多くの方が来たんだと改めて確認させてもらったが、小さい時から、この防災・減災の取組を体験しながら楽しくやることは非常にいい取組だと思うので、引き続き頑張っしてほしいと思っている。

次に、5ページの(5)のところで、「隣接自治体との情報共有」とあるが、具体的にどういった取組をするのか。

【松田総務課長】隣接する大和市とは、これまでも災害時の対応を通じて、一定の連携は図ってきたところですし、平時においても、例えば瀬谷第二地区で実施した水害の訓練に大和市もご参加をいただいて、日頃から顔を合わせる取組も行っているところです。ただ、それをより一層、より密な連携をできるようにということと、いざというときにお互い顔の見える関係で話が通じやすいようにといったところも含めて、定期的な会議を設けさせていただこうと今回計画をしました。災害時の対応に関する課題感の共有や、お互いの工夫というようなところも共有できると、総合的な向上ができるかなと考えています。GREEN×EXPOに向けても、恐らく市同士の連携ということはあるかと思いますが、地域に密着した我々、区役所の役割というのが非常に大きいと思いますので、そういった情報交換なども大和市とはやっていきたいと考えています。

【久保議員】GREEN×EXPOを控えているということもあるので、大阪万博の事例を参考にさせていただきながら、区局連携しながらにはなると思う

が、取り組んでいただきたい。

次に、「命を守る思春期応援プロジェクト」について、思春期の子供たちが孤立せず、命を守る行動を取れるよう、性に関する正しい情報をとということで、「相談窓口を周知する啓発資材を、高校生と共同で作成します」という部分があるが、その狙いやどこの高校生のことを指しているのか確認したい。

【深見こども家庭支援課長】区内の高校ということで、従前より子育て応援フェスタに加入していただいている横浜隼人高校さんを想定しています。この事業は、思春期の子供たちの健やかな成長を支えるための新たな取組として、性に関する悩み事などを相談できる相談先一覧に基づいて、正しい情報を啓発用資材として作成し、周知していきたいと考えています。子どもたちが困ったときに相談先が分からずに孤立することがないように、安心して成長し、生きる力を育むことにつなげたいと考えています。この啓発用資材の企画デザインについては、横浜隼人高校さんに主体的に関与していただいて、相談先が知りたくなかったときにすぐ見つけられるように、高校生自身が身近に持つグッズに2次元コードを付ける。そういったものを企画・考案することで子供自身の視点やニーズが反映され、子どもの成長の推進につながると考えています。このたび、県の産婦人科部会と連携が取れることになりましたので、思春期の子どもたちが支える地域づくりの推進に取り組んでいきたいと考えています。

【久保議員】次に17ページですが、「1人暮らし体験事業」について、これから拡充していくということで伺っているが、これは障害等をお持ちの方などが、親なき後の生活をどのようにしていくのかなどあると思うが、この事業について、これまでの現状と課題を伺いたい。

【佐藤高齢・障害支援課長】いわゆる8050問題に向けた工夫ということで、高齢の親と、知的障害や精神障害、精神疾患のあるお子さんの世帯への支援を12月末までに4件実施しました。1人暮らし体験の準備の段階で、これまで家庭内での生活が長く続いていたことによる、コミュニケーションに不安を抱えがちな対象の方、そういった気持ちに寄り添い、相談機関や障害福祉サービス事業者が丁寧にコミュニケーションを取って、その後の支援や家庭支援を行っています。体験の実施の段階になりますと、支援者がご本人の生活の様子を観察して、掃除や洗濯、調理など、ご本人が自分の力でできることを記録して、アセスメントを行うということを行

っています。その体験の終了後に、支援者がアセスメントの内容を、ご本人とご家族と共有をするという事業をやっています。それぞれの感想、ご意見としては、ご本人からは、「1人暮らしに向けた準備ができるよい機会になった」ですとか、ご家族の方からは、「1人でできること、できないこと、そういったことがよく分かった」ということ。事業者の方からは、「ご家族も支援者も試行錯誤ができるよい機会になった」ということですか、「ご本人が望んでいる暮らしを改めて知ることができた」などのご意見を頂戴しています。

【久保議員】 いわゆる親が亡くなった後の障害者の皆様の自立した生活、安定した生活をどのように支えていくのかということ。あとは、緊急時どうやっていくのかというようなことも、大事な課題だと思っている。もう少し踏み込むと、親が亡くなった後、後見人や、権利擁護の問題とか、そういうこともあると思うので、とにかく社会的孤立に結び付かないように、こういうことから切り開いていくことが大事かなと思っているので、しっかりこの事業を見守っていきたいと思っている。

最後に、次年度市民局のほうでも「暗がりの解消」に取り組んでいくと伺っているが、市長も安心安全なまちづくり、横浜市の施策をしっかり押し進めるといことも聞いているが、私が申し上げたいのは、これまでは地元の皆様が声を上げて、防犯灯を付ける、付けない。の判断をしていると思うが、GREEN×EXPO や、テーマパークということを見据えて、行政にプッシュ型でやってほしいと思っているが、そのことについてどう考えているか。

【政木地域振興課長】 市民局で次年度以降、防犯条例やプランを策定し、中期計画（素案）でも、防犯灯を増やしていくということをやっているところです。プッシュ型で進めていくということで、今ある基準がどう変わっていくのかということは市民局からまだ聞けていないところではありますが、やはり暗がりを解消するということが、横浜市として大きなテーマになっていくという認識ですので、その点について連合や単会の皆様に聞きながら取り組んでいきたいと考えています。

【久保議員】 是非やっていただきたい。

【川口議員】 GREEN×EXPO の話と、その後のテーマパークの話があり、瀬谷区がダブルコアの一つに位置付けられて、住んでいる皆様の安心安全が一丁目一番地だという話があった。それは当然のこととして、一方で1,000

万人、そしてテーマパークのときは1,000万人以上の方がやってくるまちになる。それはもう、ほかの区と比べることができないような、ある種異質なまちになってくると思う。その、いい意味でも悪い意味でも異質なまちになってくる瀬谷区において、区役所の役割ということを今の段階から、今年度からもう定義付けしていく必要があると思っているが、多くの方、しかも外国の方もたくさんやってくる可能性があるまち瀬谷区として、区役所の役割、今の段階で見据えているものがあれば教えてほしい。

【山岸区長】GREEN×EXPOもテーマパークもそうだと思いますが、色々な方々に対する対応。それから、安心安全な部分。ここは特に関連する局とも連携しながら、ハード面も含めてやっていかなければならないと思っています。いずれにしても、瀬谷区が変化していき、大勢の人がやってくることを、まずは我々区役所の職員も十分に認識をしつつ、ハード面、ソフト面、しっかり取り組んでいく必要があると思っています。

【川口議員】8年度にGREEN×EXPOの開会し、1,000万人弱の方が6か月間に来る状況が生まれる。こういった状況に対する相談事だとか、まずは手探りでやっていくしかないと思うが、今の段階で想定していることがあれば教えてほしい。

【山岸区長】例えば、開催がより近づいてくるということになって、3月からチケットの販売という話も出てきますので、大阪万博の開催地元であった此花区とヒアリングをしました。相当な問合せが役所のほうにあったと聞いています。当然コールセンターみたいなものは作るということも聞いていますし、「なかなかつながらない」という懸念も局のほうには伝えてあります。コールセンターにつながらないと区役所に問い合わせがきますので、そういったところの対応が近づけば近づくほど何らかの形で、人員を含めた対応もこれから必要になってくると思います。また、実際開幕すると、混雑状況だとかごみの問題とか、そういったものが色々出てくると思います。そういったところも局と連携しながらやっていかなければいけませんし、瀬谷駅、三ツ境駅のごみの問題などは資源循環局でも予算を計上して、しっかりやっていただくということになっています。あとは、何か事故があった場合の医療の問題も、局を中心に計画を作っていますので、区と局で連携・調整しながら対応していく、その中で区役所として最大限にしっかり取り組んでいくということが大切かと思っています。

【川口議員】冒頭から申し上げており、特にケーススタディとかほ

かに比べるものがなかなかない状況で、先ほど大阪の此花区の話も出てきているとは思いますが、それでも例示としては非常に少ない状況の中でやっていかなければならない。防災に関しても、GREEN×EXPO 開会中のときに大きな地震があったり、台風等があったりした場合、来場者と区民の方で優先順位を付けるわけにはいかないの、そういったところも事前に局と連携をし合いながら、事前に把握できること、想定できることというのは知っておく必要があると思うので、要望として伝えておく。

資料4 ページ、議会等でもペットに関わる避難の仕方についてお話しさせていただく時に、在宅避難に焦点を当てるようになってきた。在宅避難に焦点を当てれば当てるほど、在宅避難を推奨したことによって、在宅避難した方が万が一その家が崩れてしまってけが等をしてしまった場合、「何だよ。在宅避難を推奨していたんじゃないか」と言われてしまう可能性もあると思っている。ただ、在宅避難というのも一つの選択肢としてあることは間違いない中で、改めて教えてほしいのが、区として、在宅避難の促し方について教えてほしい。

【松田総務課長】まずご自宅の安全が確保できるということが大前提にあると思っています。広報でも周知をさせていただいているのは、まず「ご自宅の安全が確保できて、ご自宅にいられるような方に関しては、ご自宅にいられる方がいいですよ。」ということでご案内をしています。一方で、例えばご自宅にひびが入るなど、心配であるということに関しては、やはりそれなりの対応をしてからということになるかと思っておりますので、その辺り、我々も周知については気をつけているところです。

【川口議員】今の説明が多分、現時点で言える最大値かなと思っている。ただ、当然、在宅避難に耐え得る家の明確な数値というのが出せるような状況ではないので、住んでいる方も、自分の家が本当に耐えられるかどうかを判断するのは非常に難しいと思っている。その上でも、在宅避難ということも一つの選択肢だと伝えるのは、なかなか言葉遣いが難しいなと思っているところで、改めて今の説明をベースに、いい落とし所や説明を見つけられたらと思っている。

次に、7ページだが、昨年、一昨年前の区づくりの資料を見させていただくと載っていなかった「猫の飼い主向けの適正飼育啓発」という言葉を2の(2)のところで載せていただいていることに感謝をまずは申し上げたい。当然、今までもやっていることかなと思っているが、特出しする

ことによって、それを促す側の人たちの意識も変わるし、促す側の意識が変われば猫の飼い主さんにも伝わって、一歩二歩先に進んだような気持ちになるのではないかと思っている。改めて、この2の(2)の「適正飼育の啓発」ということに関して、どのような内容なのかをお尋ねしたい。

【内木生活衛生課長】 これまでも啓発には取り組んでいましたが、瀬谷区の場合、ご相談が多いのは飼い主のいない猫に関する事だったので、こちらに重点を置いた事業になっていました。ただ、先生からもご意見いただいていたように、猫の適正飼育を進めていくのは非常に大事だと思っていますので、今回、事業の中に項目として入れさせていただきました。内容としては、まずは猫の適正飼育の基本である屋内飼育をどのように徹底していくかということや、社会課題である多頭飼育問題の予防に関する啓発を更に充実させたいと思っています。広報区版でも特集を組むことなどを計画しています。また、動物愛護センターが開催する猫の健康管理セミナーなどについても積極的に案内をさせていただきたいと思っています。これまで「猫の飼い主さんのニーズについて把握を進めます」とお答えしていましたが、昨年9月の動物愛護週間のパネル展、10月の瀬谷フェスで、お知りになりたいことや、お困り事についてアンケートをさせていただきました。その結果、お困り事は様々でしたが、「知りたいこと」として、最も多かったのが災害対策、次いで、高齢期に備えた対応、その次に、保護猫、元野良猫をご自宅で保護して飼う場合の飼い方について関心が集まりました。また、別途実施した「ペットの災害対策の備え」に関するアンケートでは、今までの啓発にも課題があったと思いますが、猫の飼い主さんの備えや心構えにはまだまだ不足がある様子が見られました。猫というのは災害対策にも、その動物としての特性を踏まえた備え、犬とはまた少し違う備えが必要になってくるので、今年度はボランティアの方々と相談して、新たに専用のチラシを作ったり、展示する猫用の避難グッズを充実させたところですが、自宅の安全対策や健康管理というのは、日頃の飼育の中で進めていただく必要があると思いますので、適正飼育啓発の中でも引き続き積極的にお伝えしていきたいと考えています。

【川口議員】 詳細にわたってありがとうございます。アンケートもしていただいたこと、感謝申し上げます。

把握できたこととしては、やはり犬と同数程度いると想定されている猫の飼い主さんも、様々な悩みを抱えているということ。特に防災に関して

のお悩みを抱えていたということ。今回アンケートを取ることによって、その悩みに対する入口と出口が用意されつつあるなということ、飼い主さんも理解していただいて安心したところもあるのかなと思っている。引き続きその動きというのをさせていただきたいなと思う一方で、アンケートの結果でも分かるが、どちらかというと猫の飼い主さんのマイナスをゼロにするといった悩み相談が多いのかなと思っている。その先として、例えばうちの猫自慢など、猫の飼い主さんのネットワークというものを作ることが非常に大事なのかなと思っている。犬に関しては、散歩の途中にネットワーク環境がある一方で、猫は屋内飼育が非常に多いので、飼い主さんのネットワークが作りづらい。ネットワークを作ることによって、区役所を通さなくても飼い主さん同士の情報共有で、在宅避難も含めた災害時の猫の避難の仕方だとかアイデア、知恵というのを共有してくれるような状態になってくると思うので、できれば猫の飼い主さんのネットワークを作れるような環境を整えていただくことを視野に入れていただくと助かるかなと思っている。

あと2つ、「まちづくり推進事業」の瀬谷駅の活性化に関して、駅前の改修にあたっては、局が旗を振ってやっていることになってくると思うが、区役所の役割というのはどういったものになるのか教えてほしい。

【正田区政推進課長】瀬谷駅の北口駅前広場については、近隣の自治会町内会やマンションの方、また、店舗の事業者さんなどの方々と協議会をつくっていきまして、そのイベントや事業の情報共有、それから課題に対する意見交換等を行っている協議会があり、区役所はその事務局になっています。今回、工事が始まるというところで、そういった団体、協議会の皆様や、そこに入ってない地域の方々の声を、区役所として局に届けたり、また、逆に局から「地域の方にご説明したい」というようなこともあるので、そういった場の提供をしたりというようなことを行っています。

【川口議員】この後にテーマパーク等もできるというところで、これも一つのケーススタディになるのかなと思っているが、テーマパークに関しては、民間事業者さんが旗振り役になってくるので、区役所の接点というのは持ちづらい部分もあるかもしれないが、テーマパークができることによって住民の皆様との窓口というのは区役所になっていくのかなと思っている。そういったことも想定すると、今のモデル事業のやり方というのは今後にも生きると思うので、引き続きよろしくお願ひしたい。

最後の質問になるが、26 ページ、「瀬谷の逸品」事業について、海外から多くの方がやってくる中で、「瀬谷の逸品」のリーフレットは外国語対応しているのか。

【政木地域振興課長】リーフレットの外国語版自体の作成はしていませんが、「瀬谷の逸品」の情報については区のホームページに掲載しています。そのまま言語表示で閲覧できるような状況にはなっていますが、来年度の GREEN×EXPO を考えると、海外の方や市外の方々も含めて、使う方にとっての利便性という視点を持って、今一度過不足ないような情報提供をしていけるようにしたいと思っています。

【川口議員】海外の視察等をする機会に、その地域のものを食べることによって、より旅の深さが出る、奥ゆきが出てくる経験をする中では、瀬谷の逸品事業というものが、海外からやってくる方々の旅の喜びの増加になる可能性があると思っています。この中で外国語対応しているかどうかということ、今、AI を含めて翻訳機能が進化しているが、できる限りシームレスで分かりやすく、そしてすぐその情報が出るような状況というのをつくっていただくと、商店街も含めた商売のサイクルというのはより改善するのかなと思う。改めて連携をしていただければなと思う。

【松田総務課長】先ほど花上議員からご質問のありました、期日前投票の現状ですが、数値が分かりましたのでご報告をさせていただきます。

昨日時点、9 日間の期日前投票が終わっていますが、瀬谷区においては、2 か所合計で 1 万 6,652 です。

ちなみに、前回衆議院議員の選挙の同じ 9 日間のときの数字が、1 万 2,237 でしたので、計算しますと 1.36 倍になっているということです。報告は以上です。

備 考